

山口県と広島県の県境に広がる羅漢山（らかんざん）（標高 1109m）。早春の高原を堪能。

「羅漢山」コース 山口県 No.21
JOA公認 No.618 8km 10 ポスト

もうひとつ！岩国の模範コース

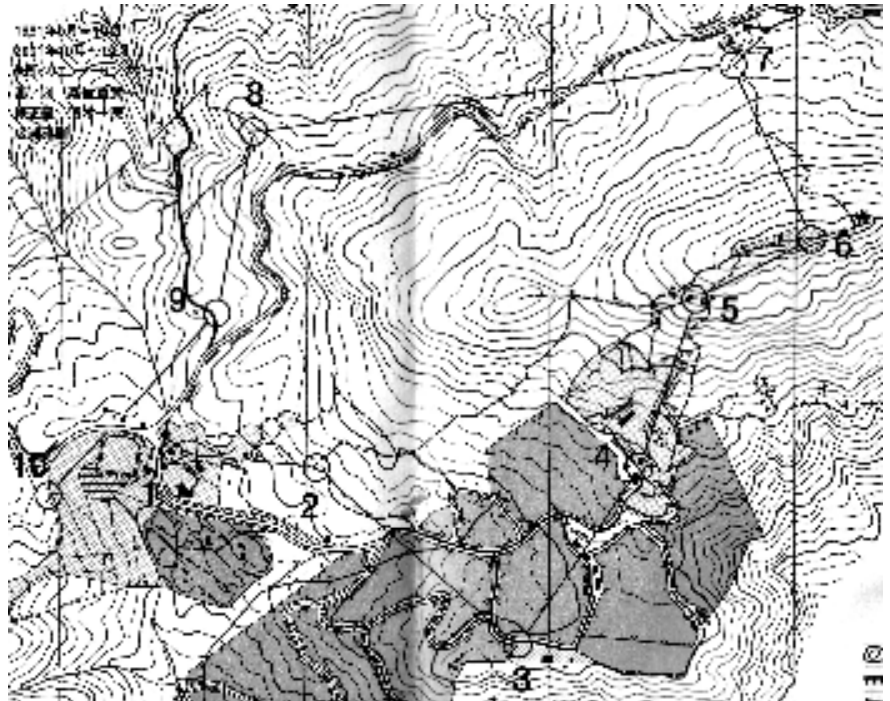
2月号で紹介しました「岩国城山」コースと同じく、岩国オリエンタリングクラブが管理する模範的なパーマネントコースがもう1つあります。2006年3月に新生岩国市が誕生するまでは錦町と呼ばれていた岩国市最北部の地域に設置されている「羅漢山」コースです。

誕生は昭和49年5月13日。公認Noは238と239のAB2コースが設置されていました。7年後の昭和56年7月20日、1コースに集約され、公認618として再出発しています。そして、2002年に序盤の一部に変更が加えられて現在のコースが出来上がっています。

このコースの踏破は2度目。前回は平成10年9月のことで、島根県のもったか岳コースとセットで歩いています。当時はまだ変更前のコース。地図も古いものでした。再訪ながら2001年調査で刷新された新地図を使って、新しくなったコースを歩くことにワクワク感が募ります。

現地までのアクセスはマイカーやレンタカーをおすすめします。地図に記載されている町営バス（旧錦町）大原線の運行状況が確認できません。広島からも車で50km。1時間半ほどのところですが、スタート地点は「らかん高原オートキャンプ場」とされていますが、案内板は北側にある交流センター前に置かれています。マップの扱いもここ。無人の場合でも連絡先が掲示されていて、この日も呼び出しをかけてしばらく待たされた後、コース図入りと白地図を入手することができました。

裏表ともフルカラーの印刷で紙質もしっかりしている気合の入った逸品です。前回は鉄製の案内板がややくたびれて立っていましたが、今はきれいに更新されています。



山の天気

このコース、実はコースの組み方が少々ユニーク。スタート地点の案内板から目と鼻の先に第1ポストが置かれています。2002年以前にはもう1箇所スタート地点があり、現在の第4ポスト（旧コースの第2ポスト）の横にも案内板が設置されていました。印刷されたコース図も、ポスト位置の○印とスタート地点の△印が重なって表記されています。最新コースではこの扱いがなくなり、スタートは1箇所になりましたが、この時の名残のように第1ポストがスタート地点となっています。以前はすぐ隣に置かれていたポストも、やや遠い場所に移されていますが…。



スタート地点からも見える第1ポスト

お昼前にスタートして数秒後に第1ポストに到達。ポスト数が9から10になったことで追加された1本がここに使われています。

コース変更はここから。旧コースでは道路を東進するだけだったのですが、今回はキャンプ場を抜けて羅漢山への登山道に入ります。ハイシーズンには賑わいそうなキャンプ場もこの日は無人。静かな遊歩道を緩やかに登っていきます。開放的な杉林に入ると間もなく分岐に立つ第2ポストが現れます。かつてスタート地点にあったポストがここに移されたようです。

と、そのとき一転俄かに掻き曇り、雨がポツポツと。天気予報では爽快な晴天の日だったはずですが、そこは山の天気。雨脚が急に強まり始めたのを確認すると、いったんキャンプ場の炊事場に引き返して様子を見ることにします。次第に雷鳴とともにバケツをひっくり返したような驟雨となり、引き返した判断にホッと一息。40分ほど待つ間に持参した弁当を食べ、晴れ間も差すほどに回復してから再び歩き始めます。

第2ポストからなだらかに下ると、牧場の景色が広がる道路へ。T字路を南に入るとだいぶ手前から遠くにポストが確認できてしまいます。こちらに向かって吠えていた2頭の犬が牧場内に去っていくのを見ながらポストに到着。従来このポストは第1ポストとして、羅漢山と牧場を見渡すのにこれ以上ないといった景色が見渡せる、道からやや上ったところに設置されていました。今は柵が立てられ立入禁止となってしまうことから、道端に下ろされたようです。



第3ポストから眺める羅漢山

牧場をぐるりと一巡りして、羅漢高原憩いの広場を目指します。ポストが間近に迫ってくると同時にまたしても雨粒が肌に触れるようになってきます。ポストを確認すると先ほどよりもさらに激しい雨が一気に降り始め、またしても雨宿りを余儀なくされます。稲光とともに雷の大音響が耳を劈くこと数度。さすがに強行は命にかかわりかねず、大人しく過ぎ去るのを待つことにします。

30分ほど待機して、北側から徐々に明るさが戻り、雨も小止みになったので再度第4ポスト前へ。前はすぐ横に立っていた古びた案内板はすでになく、周囲の植え込みもきれいに剪定されています。桜の木の下に立つポストも、すっきりとした印象です。

羅漢(らかん)山頂を目指す

ここから羅漢山登山が始まります。第5ポストまでのルートは数通りありますが、この日は「日本一長いすべり台」の横に伸びる、地図に記載のないルートを歩くことにします。全長150mというすべり台。実は現在の日本一は茨城県北部にある奥日立きららの里の「ワクワクスライダ―」。こちらは何と877m。規模が違います。それでも、150mの間にはこんな急な斜度を滑るなんて大丈夫かい?と思えるようなところもあり、大人の目にもちょっと興味が惹かれます。雨上がりではさすがに無理ですが…。

フィールドアスレチックの施設の間を抜け、遊歩道を登るとあずまやの横が第5ポストです。10年前は笹に埋も

れていたポストも、いまはすっきりと直立しています。

すぐの分岐を左手に入ると尾根筋はもうすぐ。標高1,109mの羅漢山山頂へもあと一息です。今回はハイカーの一団で賑わっていたため、ゆっくりと過ごすことができなかつた頂。今回は静かな佇まいで迎えてくれました。曇天ながら雄大な景色は迫力満点。思いっきり大きな声で「ヤッホー」と叫ぶと、しっかりと山彦が返ってきます。堂々と立つポストをチェックして、山頂を後にします。



羅漢山山頂

電波を飛ばして空中の雨粒をキャッチするという、羅漢山レーダー雨量観測所の前から下山道が続いています。

この道も整備状況に申し分なし。階段の段差が大きく、下りにくいのが難点ではありますが。下っている途中でまたしても雨が落ちてきます。今度ばかりは雨をしのげる場所はなく、腹を括ることに。以前と変わらぬ第7ポストを確認して、雨が徐々に強まる中、舗装道路へと進んでいきます。

いったん濡れてしまえば、それはそれで楽しいもの。「今日はしょうがないなあ」などと思いながらぐいぐいと歩いていくと、送電線の鉄塔管理用の小道が現れます。ここまでの山道があまりに立派に整備されていたので、こうした小道が心細く感じられます。尾根から左手に下ると第8ポストがピカピカのまま待っていてくれました。10年前の写真のポストは黒ずんだ水垢が目立っていましたが、きれいに拭われています。

降り止まぬ雨の中、林を抜け、道路へ脱出。これで山間部は全て終了です。思わず安堵の息を吐き、歩き始めると左手の林の中に第9ポストが立っています。

最終ポストはいったんスタート地点の目前をかすめ、スキーのゲレンデへ。道路から、分かりやすい小道に入ると笹の垣根の後ろにポストが現れます。

9月に歩いた前は周囲が鬱蒼とした藪だったのが、季節的な理由なのか整備をしたからなのか、疎林になっているのは驚きです。

最後はゲレンデを突っ切ってゴールイン。1時間42分で終えた前回とは異なり、雨宿りや山頂を堪能したこともあり、3時間25分という所要でした。パーマネントコースはこのくらいじっくりとその土地を満喫したほうが、かえっていい思い出になります。

充実の山歩きと食

キャンプ場で食べた弁当もわずかだったので、「岩国城山」コースを歩いた際に訪れた「いろり山賊」にこのあと直行します。到着が夕方になり、うっすらと冷えても来ました。4月とはいえ、この店の特徴である炬燵が何ともありがたく思えます。山賊焼きと山口県萩の天然記念物「見島牛」の遺伝子を受け継いでいるという「皇牛(すめらぎぎゅう)」の七厘焼き(地元では「ひちりん」というらしいです)を堪能し、1日を終えました。

高原に広がる雄大な景色を堪能できる、大推薦の羅漢山コースです。

(2009年4月12日 踏破)

(大高竜亮)